



りすす倶楽部

2025年
10月号
第334号

秋の装い

思えば、蕾も凍る極寒を、春風、芽吹き、新緑の夢を支えに耐え忍び、酷暑の日々は身に課せられた試練としたのも、秋の装いの嬉しさ故であった。移動できない樹木草花にとって「幸福はきっと来る」、こう信じて生きることが、忍耐の源のようだ。

弁護士 福井大海

(りす倶楽部 2017年 10月号第 225号掲載を再掲)

NPOりすシステム

理事就任にあたって

りすシステム理事 大塚 貞計

りすシステム理事就任にあたって

「光陰矢の如し」とは、先人が言
い得たものだと言ふ虚言無しを感じま
す。高齢者になったかなあと感じて
いたら、いつの間にか立派な後期高
齢期に入っており、時間が経つのが
とても速くなっています。

同窓会に出席したときの話題に
は、健康の話、孫のこと、時間の過
ぎるのが早いことがあがります。

友の話では、年を取ると感激、感
動、刺激が少なくなるから、相対的
に時間の経過が早く感じられるとの
ことです。「新しいことにチャレン
ジしたり、経験することを持つ」と
のこと。認知症にならないためにも、
脳の活動量をふやし、あらゆること
に気を配り、身体を使い活性化を
図らなくてはならないと思いはじめ
ています。

私は、9月に開かれたりすシステ
ムの「役員会及び社員総会」で理事
に選任されました大塚貞計(79)で
す。ライフワークバランスを捨てる
まではいきませんが、傍らに置いて
頑張ります。よろしくお願いいたし
ます。

前職は、りすシステムの創始者松
島如戒さんと同じ郷里大分県のOB
S大分放送に56年間在籍し、昨年
2024年6月の株主総会をもつ
て、退任しました。その後の1年半、
主だって何もすることがなく、夫婦
で旅行したり、ときおり地域ポラン
ティア活動にでかけるなどして時間
を過ごしていました。

男はからきしだめですね。女は外
に出て活発に趣味や友達とのお遊び
で家を留守にすることが多い。朝起
きて「大変だ……」と思って体を起
こすと次の瞬間「もう会社にいかな

くてもいいんだ」と気付く。テーブルにつき新聞を読みながら「飯はまだか」と叫ぶと、二口返事で応える。朝食の準備を終えると「友達とこれから会ってきます」とのたまう。昼食の準備はできているのか……? と飯のことしか考えていない自分が恥ずかしい。「今日はどこに行こうかなあ」「なにをするか」と考えているときに松島さんから声をかけられた次第です。

松島さんの人生

今から40年前の昭和60年に地元大分選出の国会議員の事務所で出会ったのが始まりです。私は大分放送の報道部員として東京支社に駐在し、地元の国会議員、県出身の経済界、地元企業の東京支社、TBSなどを飛び回っていました

同じように県東京事務所の職員や県出身の若き好青年が希望に胸を膨らませて国会議員事務所に集まっていました。そうした気心のあったメンバーが松島さんを中心に「ホゲの会」を設立。大分の方言で「大口をたたいて、人生を笑って楽しむ」という意味です。

当時の松島さんは「アイデアはあるが金は無い」「人と変わった一歩前に行く考え方」で、人間力で皆を引っ張っていました。

その後、このメンバーから市長や町長、県議会議員が誕生。また行政では、部長や局長を輩出

さらにマスコミでは編集局長や報道局長と重要なポジションを占めるようになります。

朋友の信が発揮され、横の連絡をとり合い、郷里の発展に若干なりとも寄与できたと自負しています。りすシステムの会員の方々が大分の旅で、庄内町の森づくりが進んでいる薬樹園を訪れたときに、メンバーがお世話させていただいています。そのメンバーも最近では寄る年波には勝てず、医療や介護のお世話になる者も出ています。大口をたたいていた紅顔の青年たちも、本人が意図する形にならないことが多く、諸行無常を感じているようです。

40年間のお付き合いを通じて、松島さんから「人生の過ごしかたとしては仁を目指し、正義を貫くことを心掛けること」の薫陶を受けていました。

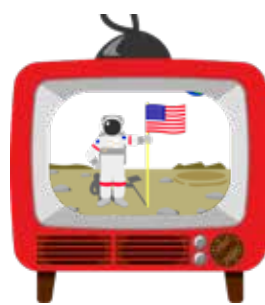
生前契約や自分らしい最後の在り方など、先駆的な取り組みをしてきたサポート事業に敬意を抱き、理事をお受けいたしました。

今現在、多くのサポート事業所ができています。時代を切り開いてきた松島さんの行動力を横で見ただけに、その苦勞は分かっているつもりです

大分放送での56年間

最近では、テレビ、新聞、ラジオはオールドメディアと呼ばれ、信頼感が落ちてきているといわ

れています。特にSNSを駆使した選挙戦術が脚光を浴びています。東京都知事選挙、兵庫県知事選挙で当初はそれほど有力だとみられない候補者やパワハラ疑惑が報じられた候補が支持を伸ばし、非常に大きな力を発揮しています。選挙戦ではテレビに頼ることなく、動画配信で候補者の一挙手一投足をこまめに追い、新しい観点での選挙戦術が受けているようです。



放送技術の革新

私が大分放送に入社したのが昭和44年。この年に人類が初めて月面に降り立ち、その模様が全世界にテレビ中継された、正にテレビが地球規模で発展を始めた年でした。

私は屋外に出て、夜空を見上げてニール・アームストロング船長の活躍ぶりに思いをはせていました。

起きている事象を、遠く離れているところでも同時進行で見られるテレビに対し、テレビの時代がやってくると確信しました。テレビの技術革新

は目覚ましく、主流の映像がフィルムからVTRへ取って代わりました。カメラも日々小型化され、持ち運びが楽になってきます。

現場から映像を送る中継システムも、昭和60年の日航機が御巣鷹山に墜落した事故を契機に、全国どこからでも中継が可能な衛星放送中継システムが導入され、簡単に現場から映像が送られるようになり、ニュースや情報番組のスタイルが大きく変わってきました。

大分放送では、毎年2つイベントを全国放送しています。その1つが毎年2月に行われる「別府・大分毎日マラソン」です。1979年に全国で初めてとなるフルマラソンの完全中継が行われたのは誇りの1つです。もう1つが11月の車椅子マラソンです。

衛星放送システムのお陰で、移動中継がスムーズとなり、製作スタッフも半数の100人前後と縮小されています。放送環境や設備は、10年から15年で大きく変わってきます。モノクロからカラーへ。アナログからデジタルへ。その都度大きな変化が伴います。

NHKをはじめ、日本テレビ系列、TBS、フジテレビ、朝日放送、12チャンネルと短期的に14社がシステムを完全に切り替えを行うため、莫大な資金が必要となります。これも放送局の経営を苦しめる一端です。



報道への取り組み

技術革新とともに、取材力の強化が必要となってきます。同業他社や新聞社との競争の中で、大きな事件、事故、災害などが発生したときに報道の力量が表れます。

私たちが入社した頃のニュース枠は、10分少々とゆったりした気分でした。それでも10円玉を200円分ぐらい持ち歩き、事件が発生したときは、通信手段として公衆電話を探すことから始まりました。テレホンカードができたときは、公衆電話も増えて、ホットしたものです。通信手段もFAXからポケットベル、携帯電話と日進月歩の発展を見せました。便利になる反面、息抜きができなくなる苦勞もあります。

ローカル各局は、昭和50年代から後半にかけて、30分間のワイドニュースを組み、地域に根差したニュースに取り組みはじめました。

事件取材と競争の日々

報道現場で40年間、森羅万象を対象に取材してきましたが、最も印象に残るのは別府湾3億円保険殺人事件です。

荒木虎美被告が妻子3人を乗せて車ごと海に飛び込み、本人だけは助かり、妻子3人に3億円の保険金をかけていたことです。

入社から15年を経過しており、毎日夜討ち、朝駆けで苦勞しました。荒木被告はキー局のワイドショーに積極的に出演し、言葉巧みに潔白を証明していました。警察がいつ逮捕するかつかめず、大勢の記者が24時間張り付き、取材合戦が続きました。その後、ワイドショーに出演した後、大分空港に降り立ったときに大分県警に逮捕されました。各社横並びといえ、逮捕される瞬間を撮影でき、若干ほっとすることができた記憶があります。

荒木被告は最高裁まで争いますが、私が東京支社にいたときに病気で獄中死しました。この事件を契機に保険金の在り方やメディアスクランブル(集中取材)が問われますが、メディアスクランブルは後々まで続きます。

マスコミの取材競争の中で、全国放送される事件や事故に対し、いかに早く体制を組むことができるか、24時間待ったなしです。今でもデスクの前には、事犯が発生したとき、どれだけ早くスタ

ジオを開き特別番組を組むことができるか、現場の映像を他社に先駆けて放送に結び付けられるか、さらに深みのある放送ができるように訓練できているか、紙にして掲げられています。金料玉条の如く守られ、全社一斉の訓練も実施されています。

事件が終わった後、皆で一杯飲む酒は、格別なものがあります。「あの坂を超えれば良いことが待っている」「あの角を回れば明るいことがある」と励まし合ったものです。



スマホとテレビ

スマホの発展は、あらゆる機能が凝縮され、高齢者にとってなかなかついていけないのが現状です。

1億人総力カメラマンであり、情報発信者であることは言うまでもありません。放送局も市民が撮影したスクープ映像を確保しようと、投稿ボックスなどを設けて映像を受け取っています。取材記者もスマホで現場を撮影した人を探すことを大切にしています。われわれが電話ボックスを探す

のとは隔世の感があります。

コンビニ店の防犯カメラや、街中に設置されている防犯カメラ、ドライブレコーダーを探すのも仕事のひとつです。防犯カメラについては、かつてプライバシーの侵害に当たるとして、設置反対の声が多く出されていました。しかし、今では防犯抑止につながると同時に、事件捜査にその役割を増しており、存在感を高めています。

仮に、防犯カメラがなければ、捜査能力も落ち、事件捜査が長引き、犯人を取り逃がすおそれがあります。

総監視社会ともいわれています。デジタル技術の進歩と映像送信の高度化が鮮明な映像を放送できるようになっていきます。テレビ番組で、一般の方が撮影したスクープ映像や面白映像の番組をみるにつけ、シャッターチャンスに驚くばかりです。

AIとテレビ

ふと気が付くと、世の中が人工知能（AI）だらけになっている。

囲碁や将棋でトップクラスのプロを負かし、車も運転し、定期的な放送原稿も書いています。また、AIの音声でニュースも伝えていきます。日常に先端技術が入り込む時代になりました。我が身を振り返れば、若い頃「夜回りを代わりにやってくれるロボットがいたらなあ」と、馬鹿な妄想を

した時もありました。AIか本物か、見分けのつかない危険な時代になり、何を信用したらよいか、スマホであれ、YouTubeであれ、フェイクニュースが流れ、人心を惑わすことが多くなりました。

情報社会の中心が、マスからパーソナルに移りつつあり、怒りと憎悪が起きやすくなってきました。分断は益々進み、民主主義にとって非常に厳しい状況が生まれてきました。分断の背景には、経済的格差などさまざまな問題が横たわっています。国際競争が激化する中で、先端技術産業やAIの開発競争は格段と推進されます。技術進歩によるフェイクニュースに騙されないためにも、ファクトチェックや、リテラシー教育の充実も必要になります。

何事も開発に伴うリスクはつきものです。技術革新とリスクとの対応を図り、安心して活用できる環境も必要です。ネット情報は、面白くても正確さを欠きます。

テレビ・新聞メディアは、厚い取材網に加え、デスク、編集長などの専門を通じて視聴者に届けられており、フェイクニュースは起こりにくい環境にあることは事実です。報道は客観的に観察・分析し真実に迫ります。

オールドメディアといわず、安心して活用を頂ければと思います。

考古学のはなし 第15回

登呂遺跡と戦後日本

NPOりすシステム顧問

古賀秀策

●登呂遺跡とは

登呂遺跡はJR静岡駅から駿河湾に向かってバスで15分、住宅街の真ん中に位置する、弥生時代後期の集落跡と水田跡の遺跡です(図1、2)。

登呂遺跡のことはこの連載でも、第7回「住まいと建物の考古学」(たてあそび「竪穴建物編」と第10回「掘立柱建物編」)でお話しました。それは、全国の遺跡公園で復元されている竪穴建物や高床建物は、静岡県の登呂遺跡で復元された古代建物をお手本にしているものが多いということでした。



図1 登呂遺跡の位置 (GoogleMap)

このように

原始古代の復元建物が最初に建てられた遺跡という意味でも登呂遺跡は重要ですが、さらに考古学会や歴史学会の近代化と



図2 住宅地に囲まれた登呂遺跡公園

いう面でも登呂遺跡は重要な画期でした。また日本の戦後史において、社会に大きな影響を与えた遺跡でした。今回は社会的な面からこの登呂遺跡を見ていきましょう。

●登呂遺跡の発見

登呂遺跡は戦時中の昭和18年、戦局悪化による工場疎開で静岡県に新たな工場をつくるため、住

友軽金属プロペラ製造静岡製作所と三菱重工業静岡発動機製作所の建設用地で発見されました。工場の敷地に盛土をするために敷地南側の表土を削ると、弥生時代の水田を形づくる延々と続く木杭列が現れ、そこから大量の弥生土器の破片や木製品が出土したのです(図3)。

遺跡の重要性を感じた毎日新聞静岡支局の森豊(もりゆたか)記者は、すぐに遺跡発見の第一報を報道しましたが、戦時中という時局からその記事は数行という短いものでした。

この時ちょうど昭和15年に起きた「静岡大火」の復興事業のために「静岡市臨時復興局」が設置されており、その局長で都市計画家でもあった阿部喜之丞(あべきのじょう)局長は事の重大さを認識し、露出していた木杭列を平面測量しました(図4)。この測量図が後に重大な意味を持つこととなります。



図3 工場敷地と登呂遺跡の位置関係図

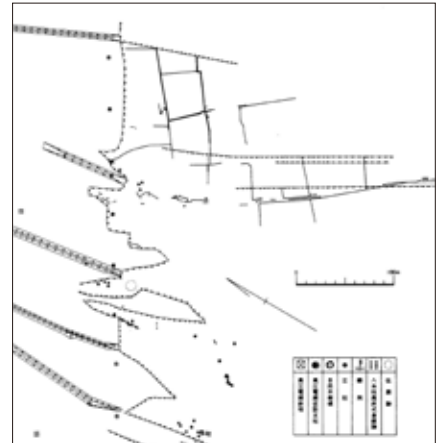


図4 阿部喜之丞の測量図

●戦時下の発掘調査

遺跡発見の第一報は東京にもすぐ届き、東京大学の原田淑人氏や八幡一郎氏、明治大学の後藤守一氏、國學院大学の大場磐雄氏など著名な考古学者が視察に訪れました。彼らや地元の国民学校教諭で在野の考古学者でもあった安本博氏などの有志が、遺跡の重要性和発掘調査の必要性を熱心に静岡県に働きかけたおかげで、県は同年の8月から9月にかけて約1ヶ月という短い期間でしたが第一次緊急発掘調査を実施しました。戦争の真つ只中に軍需工場の敷地内という特殊な場所で、よく学術調査ができたものだと思います。この英断のちに奏功します。発掘調査はおそらく憲兵隊の監視の中行われたようで、調査員が憲兵に殴られたとか、カメラのフィルムを没収されたという記録も見えます。

現在の登呂博物館に展示されている丸木舟や櫂



図5 丸木船の発見を報じる新聞 (毎日新聞静岡版、1923.7.11)

や琴など、代表的な木製品はこの第一次調査時に発見されたものであり、あとで述べるように戦後すぐにこの水田跡が破壊されてしまうことを考えると、困難な状況で敢行された第一次調査の重要性は計り知れません(図5)。

戦局も押し詰まった昭和20年になると軍需工場は、たびたび空襲を受け、遺跡も被害を受けたようです。同年6月の静岡大空襲では出土遺物の一部が失われ、発掘調査記録の多くが焼失しました。

●終戦後の登呂遺跡

やがて終戦になり、登呂遺跡の中の住居群のある地区の遺跡は工場建設のため埋め立てられていきましたが、水田跡がある地区は遺跡がむき出しのままでした。戦後の工場用地払い下げで再び水田

として利用されることになったのですが、当時は遺跡の重要性が一般に理解されておらず、弥生時代の杭の大半が抜かれて、遺跡は壊滅的な破壊を受けました。当時を知るお年寄りは「杭や矢板は流木と同じで良く燃えたようだ」と語っていたようです。

破壊された遺跡の記録として、戦時下の阿部局長の測量図や緊急発掘調査が、登呂遺跡全体を考察する時になくはならない資料としての価値を持つこととなります。

戦後すぐの昭和21年に地元の有志が再度の発掘調査を期して「静岡県郷土文化研究会」を組成すると、それに呼応して東京の研究者が昭和22年「静岡市登呂遺跡調査会」を結成し、明治大学の後藤守一氏や杉原莊介氏を中心として、同年から4か年計画で、ついに本格的な発掘調査が始まりました。

この発掘調査は、従来の神話をもとにした皇国史観を科学的に書き換えることであり、考古学や歴史学の再スタート地点でもありました。また、考古学・歴史学者だけでなく、人類学、地質学、動植物学、建築学、農業経済学など様々な分野の研究者が参加する総合学術調査が初めて行われたことでも画期でした。

この年の登呂遺跡の発掘調査をきっかけとして、考古学者が協力して研究の質的な発展を図ろうとする機運が高まり、初めての全国組織「日本



図6 国会決議を報じる新聞（登呂博物館）

●登呂遺跡と戦後日本

考古学協会」が昭和23年に発足しました。

登呂遺跡の発掘調査は全国の関心を集めることになり、発掘の様子は毎日のように新聞で報道されました。戦後の食糧難で調査隊も困窮していることがわかると、国会の決議で米2俵が調査隊に特別配給されたこともありました（図6）。「夏は来ぬ」で有名な歌人佐佐木信綱氏は登呂で30首を詠み、登呂の合唱曲まで作られ歌われました。

当時の登呂遺跡に対する社会の高揚の様子は、明治大学の学生として発掘調査に参加していた大塚初重氏（後に明治大学教授）の言葉から如実にうかがい知ることができます。氏の自叙伝から少し長くなりますが引用してみましよう。

「土をちよつと掘り返すと、木の杭や土器がわんざか出てくる。直径5メートル以上の竪穴住居

跡には、壁としての杉の板が打ち込まれ、水田跡の用水路には何千本もの杭が2000年前の状態に残っている。地下水で洗われて腐らないで残っている。これらは弥生時代の人たちが打ち込んだものなのだ。本土は米軍の空襲でやられたけど、こいつらはちゃんと地面の中で残っていた。日本はまだまだ滅んでなんかいやしない。ちくしょう、負けたって生きているんだよ、日本人は」（『土の中に日本があった』小学館、2013）

調査にあたっては、旧制中学や新制高校の学生が多数参加する「開放的な」発掘調査が初めて行われた現場でもありました。この時調査に参加した学生から、のちに優秀な考古学者や歴史学者を何人も輩出することになります。

またこの発掘調査の資金を募金として募りました。一般市民を巻き込んだ活動もこれまでにないことでした。しかも募金の趣意書には遺物の返還と博物館建設が謳ってありました。当時は遺物を東京の国立博物館や帝大が持つていってしまい、遺跡は埋め戻したままというのが当たり前でした。現地に博物館を建設し出土遺物を展示して、遺跡を公園として整備し、教育や観光に活用するという手法も画期的なものでした（図7）。

調査の結果、12棟の竪穴住居、2棟の高床倉庫、8ヘクタールの水田跡が発見されました（図8）。登呂遺跡は弥生時代の稲作文化を初めて証明し、2000年前ののどかな田園風景を描き出しまし

た。それは敗戦という空洞を抱え、食糧難と物資不足で生きにくさを感じていた人々に、日本の文化的アイデンティティの根源を提示し、社会に一大考古学ブームを巻き起こしました。

登呂遺跡も発見からすでに80年余、新たに発見された佐賀県吉野ヶ里遺跡のブームなどにより、近年の小中学校の教科書に載ることも少なくなりました。しかし、今でも水田農耕をしていた弥生時代後期の人々の生活を生き生きと物語る最も重要な遺跡の1つであることには変わりはありません。

静岡市立登呂博物館 SHIZUOKA CITY TORO MUSEUM



図7 現在の登呂博物館

図8 現在も弥生時代と同じ場所にある水田で赤米を耕作している

落葉樹の紅葉

宇都宮大学名誉教授

谷本 丈夫

紅葉染めに由来するもみじ

落葉樹は、秋深くに緑の葉が赤や黄色に紅葉します。ことにカエデ属のさまざまな樹木の紅葉は、紅葉狩りとして万葉の時代から愛でられていました。紅葉狩りはイチゴ狩りなどのように収穫を期待したものではなく、国語大辞典で調べると「山野に紅葉を訪ねて鑑賞すること、紅葉見」とされています。

江戸時代の錦絵などには紅葉した枝を肩に散策する絵も残されていますが、現代ではむやみに枝を折ることは御法度です。何故「紅葉」がモミジ（植物名）と読まれるのでしょうか？「もみじ」という言葉は「草木の葉が赤、あるいは黄色くなる」という意味の動詞「もみず」（紅葉す、文語体ではもみづ）に由来しているそうです。その連用形



図1 胡楊（こよう）黄葉



図2 イチョウ（上野公園）



図4 イヌブナ林の黄葉



図3 ブナ黄葉（奥羽山脈和賀岳）

「もみじ」が、葉の色が変わることや、紅葉そのものを指す名詞へと変化しました。また、「もみず」は紅葉染めの「揉み出づ」に由来しています。ベニバナの花びらには紅色と黄色い色素の2種類の色素が含まれており、これを真水につけて揉むと、まず水溶性の黄色の色素を揉み出すことができます。次に、アルカリ性の灰汁に浸して揉むと、

鮮やかな紅色を揉み出すことができそうです。この紅葉染に由来するのであれば「赤葉」という漢字ではなく「紅葉」が定着したのも納得できます。（『紅葉』と書いてなぜ「もみじ」？ベニバナと意外な関係』日本経済新聞、2012年11月20日電子版）。

日本列島の落葉樹

「もみじ」という言葉が紅葉（黄葉）するの意味で

使われているのであれば、カエデ属のモミジにこだわることなく、一般に草木の葉の色変わりとして理解できます。日本列島では南北に長い国土のために九州、四国、本州の関東から西部、中国地方の標高の低い地域に冬でも葉をつけているクスノキなどのような常緑樹が生育していますが、同じ地域のおよそ標高600m以上と東北・北海道では亜高山性の針葉樹林の下部では落葉樹林となっています。日本の落葉樹は、冬が寒いために生育に不都合な時期に落葉する夏緑林と呼ばれる落葉樹です。これに対し乾季と雨季のある地域では雨季には葉をつけた雨緑林と呼ばれる落葉樹が生育しています。それぞれ落葉前には紅葉、黄葉します。樹形は高木から低木まで、例えばツツジの仲間のドウダンツツジ、レンゲツツジの紅葉。上流のオアシスで使うためダムがたくさんできた結果、減水してしまった中国タクラマカン砂漠の川辺には、衰退してしまった胡楊の黄色（図1）、神宮外苑の絵画館前通りのイチヨウ並木、上野公園のイチヨウ（図2）、特にイチヨウは、自生種は絶滅危惧種になっているのに、その有用性から人間の手で世界中に植え継がれた見事な大木や並木を各地に見ることができます。ブナ林の黄葉（図3）も、雪を引き連れた冬将軍が訪れる降雪前の秋晴れに映えています。一方、イヌブナは太平洋側に生育し、複数の幹を持つ独特の樹形を持ち、葉は黄色から褐色に色づきます（図4）。

カエデとモミジ、その違いは？

「紅葉」の本命はカエデの仲間です。晩秋になると京都や都心の江戸時代からの名刹、庭園などから紅葉便りが届き、ライトアップされた色艶やかな庭園が紹介されます(図5)。ここに植えられているモミジ類はイロハモミジ(図6)、ヤマモミジ、オオモミジ、ハウチワカエデ(図7)などが多く、中には芽立ちの時から赤い色をしているオオモミジ系のノムラカエデなどの園芸品種も多く見られます。カエデとモミジの違いは、すでに述べたようにモミジは「もみず」に由来する名前前で、カエデは、葉の形がカエル(蛙)の手に似ているので、「かえるで」、後に「カエデ」と呼ばれるようになり、そのなかで目立って色が変わるカエデの仲間をモミジと呼んだとされています。また、葉の切れ込みが浅いものをカエデ(図7)、葉が小さめで手のひらの形をして、深い切れ込みになったものをモミジ(図6)と区別しているようです。庭園樹として馴染みのあるイロハモミジはイロハカエデと両方の名前が違和感なく使われています。さらに丸い葉でヒトツバカエデ(マルバカエデ、図8)、三つ葉のミツデカエデ(図9)、薬効からの名前のメクスリノキ(図10)はミツデカエデと同じ大型の3枚の葉で構成され、紅葉はとも綺麗です。チドリノキ(図11)はマルバカエデと同じく普通の葉の形で、果実を見なければカエデの仲間とは思えません。

紅葉のスイッチは8度

紅葉狩りの名所は、昇仙峡(山梨県)、龍王峡や日光いろは坂(栃木県、図12、13)など渓谷の断崖に沿った場所などに多く、特に見事な紅葉は、乾燥や台風の影響や長雨の少なかった穏やかな夏が続く、急に秋の気候になるような年に見られます。そんな年は10年に一度あるかないかです。穏やかな夏の気温が、秋になって急に下がり最低気温が8度を下回ると紅葉が始まり、

中で生き延びていたカエデの仲間やナナカマドなど紅葉の美しい低木がいち早く成長してくるために、植えられた針葉樹が大きく成長していくまで若い造林地は、渓谷と同様に紅葉の美しい場所でもあったのです。紅葉にもさまざまな話題、側面があります。手始めにご近所の公園、記念庭園などを散策されて、どんな場所にどんな紅葉が見られるか、これまでと異なった視点からご覧になってくださると幸いです。

5〜6度で急速に進むことから「紅葉のスイッチは8度」などと言った方が、一斉に紅葉のスイッチが入るため、急に冷え込む年は紅葉がきれいになるのです。また、大きな樹木で形成される森林の状態では、紅葉する低木は日陰で生育しています。林内では日差しのある場所より最高温度が下がり、最低温度は高くなるので紅葉は一気に進まず、中途半端に終わってしまうのです。森林利用の盛んだった昭和の時代には、ブナ林(図3)などの自然林が盛んに伐採利用され、その跡地にスギやカラマツなどの針葉樹が植えられています。植えられた樹木の成長を妨げる雑草木は盛んに刈り払われ、このような若い造林地では大きな樹林の



図5 日光輪王寺庭園



図6 イロハモミジ



図7 ハウチワカエデ紅葉



図8 ヒトツバ(マルバ)カエデ



図9 ミツデカエデ



図10 メクスリノキ(日光植物園)



図11 チドリノキ(カエデの仲間)



図12 鬼怒川龍王峡



図13 いろは坂屏風岩の紅葉



やっ谷地域における 移住・定住促進活動

地域未来計画研究センター所長
立命館アジア太平洋大学教授

ヴァファダリ カゼム

地球に恩返ししの森づくり事業部では、2009年より大分県由布市庄内町・地球に恩返しの森づくりを通して、環境活動や里山保全活動を続けています。今月は、地域未来計画研究センター長ヴァファダリカゼム立命館アジア太平洋大学教授より、由布市谷地域における移住定住促進についての活動を教えていただきました。

「ほどうい田舎」谷地域

谷地域では多くの農村地域のように少子高齢化によって地域が衰退していることを以前お伝えしました。しかし、この地域で暮らしたいと考えている人は実際には多く存在します。その理由の一つとして、車を使えば大分市内まで約30分で着くことができるという利便性があり、非常に立地に恵まれた農村地域であるためです。谷地域は農業が盛んでありながら、大分市内までの距離が近いので、まさに「ほどうい田舎」として知られています。

農地と宅地の問題

では、移住希望者が多く存在する中、なぜ移住促進が困難なのでしょう。その理由について説明します。谷地域は農業が盛んな地域であり多くの農地は存在しますが、移住に

適する宅地が少ないのです。そのうえ、農地を宅地に転用するためには、特別な許可申請が必要であるため、その手続きの複雑さや条件に満たないため、宅地転用の実現が難しいのです。そのような理由から、谷地域に住まいを設けるための居住可能な土地・場所が不足していることから、新たに移住者を受け入れることができま

せん。谷地域の住民の話によると「地域内の市営住宅を建て直すことで、より多くの世帯が居住できるように整備することが考えられるが、それ以外の解決策が見つからない」とのことです。

移住者の定住化を図る

そこで、今後地域の移住促進かつ地域資源の維持に向けて、まずは移住者間のさらなるコミュニケーションを活発化することで移住者の生活

満足度を向上し、定住化を図ることが重要だと考えました。従って、地域コミュニケーション及び行政と協働して移住者交流会を開催することになりました。交流会では谷地域に移住して地域内で生計を立てていらっしゃるご家族の取り組みの紹介、地域に関するプレゼンテーションやディスカッションを行いました。当日は谷地域のみならず市内在住の移住者にも参加いただきました。

体験と対話で深める絆

取り組みの紹介では、移住者の一人の生業である『包丁研ぎ』のデモンストラクションを行いました。そして、ご家族で飼育されているヤギの里を訪れ、参加者全員でヤギと触れ合いながら自然を楽しみました。その後、近くの公民館でディスカッションを推進し、移住者間のコミュニケーションの創出を図りました。また、ディスカッションでは、参加者の抱えている移住ライフに関する悩み事や今後のビジョンなどを共有することで、同様の立場にある他者

今回も引き続き由布市谷地域についてお伝えします。

これまでは谷地域の資源や地域住民と協働して行うイベントについて紹介しましたが、今回は移住や定住を促進するための活動について発信します。



『包丁研ぎ』のデモンストレーションの様子



移住者の生活の様子を見学



公民館にて移住者同士のディスカッションの様子。日頃の悩みなどを共有することで、お互いの理解が深まった

との交流を通じて、多様な情報や経験を相互に共有する機会が得られたという声が挙がりました。

持続的な人的ネットワークの形成

最後に、交流会を実施したことによって相互理解の深化および信頼関係の構築が促進され、持続的な人的ネットワークの形成につながったと実感しています。今後も谷地域のよりいっそうの移住促進に向けて地域コミュニティと活動を進めていきます。

「地球に恩返し基金」に寄付をいただき、ありがとうございました

原田 耕太郎さん

神奈川県横浜市

匿名1名

※ 2025年9月1日～9月30日の期間、2名の方から寄付をいただきました



地球に恩返し運動について

私たちの生命を育ててくれている地球!! このやさしい地球に少しでも恩返しをして、次世代に美しい地球を残しませんか。皆様のご寄附で「地球に恩返しの森」に植樹ができ、銘板にはあなたのお名前が刻まれます。

※匿名希望の方は、振込用紙の「通信欄」に「匿名希望」と、ペンネーム希望の方は「ペンネーム」を明記の上「ご依頼人欄」には必ずお名前をご記入ください。

NPO りすシステム
地球に恩返しの森づくり事業部

地球に恩返し運動本部

連絡先: TEL.03-5215-2383

地球に恩返し 基金振込先

●郵便局から振り込む場合

郵便局口座番号: 00140-7-743432

加入者: 地球に恩返し基金

●他行からゆうちょ銀行に振り込む場合

店名: 〇一九 (ゼロイチキユウ)

種目: 当座 口座番号: 0743432

加入者: 地球に恩返し基金



公明党の与党離脱をチャンスにリベラルの終結を！

2025 年 10 月 10 日は日本の現代史に残る日になるかもしれない。この日は、りすシステムの新年度の経営会議で夜 8 時半ごろ帰宅してテレビをつけると「公明連立から離脱」のニュースが流れていた。

ここ一週間の成り行きで公明が下駄の雪を続けるのか自らの道をしっかり貫くのか、五分五分と考えつつも、公明党に自民党と思いつつ袂を分かつことを期待していた。

結果は私の願いが叶った。ノーベル平和賞を南アメリカベネズエラの野党指導者マリア・コリナ・マチャドさん。これも大変嬉しいニュース。まさかトランプの受賞は 99% ありえないと思っていたが、万が一トランプ受賞なんぞになったらどうしようと思いつつ悩んでいた。

公明党の決断に敬意と期待を表す

自民党と公明党は何から何までちがうじゃないですか。それでも連立政権を 26 年間もつづけたのだから、政治の世界なんて、なんでもありなのだ、少々あきれていた。

諸説あるようだけど、支持母体創価学会のドン池田大作氏を守るためには、政権の中にいる必要があったとの説には、一定の説得力がある。時あたかも韓国では、統一教会のトップが逮捕されるという事件が起こっている。宗教団体に疑惑はつきもので、池田大作氏についても、古くからとかくの噂は流れていたもので、政権を離れ、時の政権を敵に回すと何が起こるか！！

そんな恐怖があり、池田大作氏の意向で自民党とのくされ縁は切るに切れない深情けであったであろうことは、容易に推測できる。池田大作氏没後、そろそろ 2 年経ったので、政権を離れられない最大の必要がなくなったことも、今回の公明党の政権離脱の判断となつたのでは、と私は推察している。

立憲民主は村山氏の轍を踏むな

思い起こせば 1994 年、りすシステムスタートの翌年のことであった。村山首相就任の様子をカーラジオで聞いて、村山富市という 1 人の政治家が首相になったことで、日本の行く末についてどれだけの損失をこうむったか、はかりしれない、と悔し涙を流したものである。私たち日本人の良心、リベラルと言っても良いが、当時の社会党が主張し続けた、平和憲法堅持、日米安保破棄、自衛隊は憲法違反の主張などを認めることで、全てを失った。

立憲これからどうする

立憲民主の憲法 9 条の尊重、脱原発、自衛隊を憲法に書き込まない。この 3 点は、公明党とほぼ同じスタンスだとおもわれるので、今回の首班指名は見送り、次回を期して、公明党その他の野党と政策協議をすすめることが、日本の将来にとって国益になると考えている。

公明党が、今回の首班指名で野田佳彦支持というのでは、あまりにも露骨すぎる。私たち庶民生活でも離婚したが、手続きもままならないときから、次の相手と結婚というのではあまりにも節操がなさすぎる。政治の素人、門外漢の私に詳しいことは分からないが、国民民主党をリベラルの側に入れるのは、限りなく難しいと私は考えている。

まず、連合というのは、日本労働組合総連合会がフルネームで、1989 年にそれまでの総評、同盟、中立労連、新産別という労働組合の全国組織の統合が図られて、誕生したのが「連合」なので、それぞれ所属する企業が異なり、思惑も異なる労働組合を一つにまとめた組織故、そう簡単ではない。

とりわけ深刻なのは、組合数で連合の中での 5 番目の電力総連という東電をはじめとする電力会社の労組は、労働組合というより原発による企業利益を代表しているように私にはみえる。

(※ 13 ページに続く)

(12ページから続く)

回りくどい言い方をしなくても、電力総連のみならず、原発の新設に意欲を持つ企業利益追求という大目標をもっていることを、きれいな言葉でいうと「エネルギー政策」の違いがある。原発は国策だから、政治の力が企業の存亡を左右する。国民民主党は電気事業連合会という東電など電力会社の連合体と、そこで働く労働者の団体(労働組合)とが一体となって日本の社会のエネルギー政策のキャスティングボードを握る立場を確固たるものにしようというのが玉木氏の立場であると私はにらんでいる。よって、私はこんな男には絶対に総理大臣になってもらっては困ると考えている。

立憲の立場は原発反対だ

2025年5月、連合と国民民主、立憲民主の3者で、憲法、外交、安全保障、経済、エネルギー、多様性の6項目について、参議院選挙に向けた、国会対応での連携強化を連合は求めたが、合意に至ったような、至らなかったような、玉虫色の合意だったようだ。

それぞれの主義主張利害が、合致しなかったからこそこの2党は分かれたのだから、そう安々と合意に至ることは有り得ないだろう。玉木を首相候補とするというシナリオの立憲の本音は、アリバイ作りだと私はみている。

憲法で、衆議院の優位の規定があるので、事実上総理大臣を決めるのは衆議院の議決となるが、その衆議院での議席数が立憲148、国民27の状態、国民の5倍以上の議席を持つ立憲が民主の代表玉木氏を首相候補に担ぐというのは高等戦術で、ほかの維新や連立政権から離脱した公明党向けのパフォーマンスとしては素晴らしい。

私がもし立憲幹事長の安住氏の立場でも、同じことをするだろう。何故ならば、衆議院の総議席数で、与党自民党が過半数の233に対し、196議席しかない現状で首相指名の決戦投票をせざるを得ない状況下で、自民党は公明党の政権離脱という状況を作ってしまった。

野党第一党のチャンス到来、自民党を倒すことは、立憲は天下取りのジェスチャーは必須の条件、そこ

での策が玉木首相候補。

前段にも書いたけど、ここは自民党の少数与党単独政権を容認することが、恐らく組織が自民党に寄り寄る結果とならないベストな選択だと思う。りす倶楽部10月号がお手元に届くときには結論は出ている。安倍強権政治の続いた10年に比べると、多様な可能性に政治家がチャレンジできる舞台があたえられた現在の政治状況のほうが民主主義政治としても良いと思っている。

今後、立憲(党内もいろいろあるが)と公明、社民、共産(これもアレルギーがあり何かと問題はあろうだ)というリベラルの塊と自民、維新、国民民主と右翼と言ってよいくらいの参政党などの2極で、政権運営が行われるのは、健全な民主主義の姿に近いものとなるのではないか。

リベラル側として堅持するべきテーマは、平和憲法を護ること、日米安保を軍事同盟から友好平和条約へと改組、自衛隊の国民防衛隊(仮称)への改組(戦争のための組織から国民生活を護る組織へ)、原発から再生エネルギーへ、食料安全保障、天災への備えとしては、防衛隊への若者の強制参加により、今後の人的資源の枯渇が大問題のエッセンシャルワーカーの人材確保。我が国は、憲法の規定により戦争に加担しない宣言を掲げ、実現する。抑止力などという相手を上回る軍事力を備えるというバカげた政策の廃止。

私は、日本の安全保障の最大リスクは、米国と考えている。日米安全保障条約により、米国が日本を守ってくれるなどという夢から醒めること。トランプ様の仰ることを「ハイハイ、左様に致します」なんてことになると、日本は年金も医療、その他福祉サービスなどの総てが不可能になる。私が総理なら、トランプ大統領に「無い袖は振れません」ときっぱり言う。

村山富市元総理逝去の報

本稿校正中の10月17日にこの報道が流れた。哀悼の意を表します。明日の朝刊で、功と罪どちらに比重を置いて報道されるか……。死者にムチ打つようなことは書けないだろうが、村山氏が首相になるために多くのことを失ったことを忘れてはならない。(松島如戒)



東日本支部 Hさんご夫妻支援 寄り添い続けて8年

Hさんご夫妻（夫・90歳、妻・88歳）はいわき市在住で会社を営んでいましたが、東日本大震災で被害を受け、会社の再生を諦め、埼玉のURに転居していました。

長男の逝去と住まいの整理

新聞でりすを知り、2016年7月に契約しました。

2018年に長男が不慮の事故で亡くなり、いわき市にて、長男の葬儀や以前の住いの解体などの依頼を受けました。

夫婦で入れる施設探し

2019年に奥様の認知症が進みURでの生活が難しくなり施設探しをすることになりました。夫婦で住めて費用も比較的安価な施設を希望されましたので、要望にそった2か所の施設を見学して、その中から1か所を決めました。もちろん入居保証は「りす」です。決め手は奥様の状態を優先して今までの環境と似ていたことでした。

施設での生活は順調でしたが、奥様がベッドから落ち、大腿骨を骨折して緊急入院となり病院生活が始まりました。

リハビリから特養へ

以前、奥様の認知がみられたときに介護申請をしていたのですが、病院で認知症の検査を受けた結果は特に問題なく医師の意見書を頂けなかったため、中断していた介護認定を再申請し、要介護3が認定されました。緊急入院した病院よりベッドから車椅子移動が出来るようにとリハビリ病院への転院を勧められて「老健施設」に入所することとなりました。老健施設にはご主人も10日に1度は面会に行かれ、仲睦まじくお話しされていたそうです。

その後コロナ禍で面会がままならず、その期間に奥様の認知症が進み「老健施

設」への転居を考えられ、施設探しを相談されましたので、ご夫妻と特養の見学を行い、入居を決めました。入居の契約はりすが保証しました。

認知症がもたらした夫婦の距離

ご主人は「特養」に入居した奥様を毎月面会に行っていたのですが、あるときから面会に行かなくなりました。姪御様に「心当たりはありませんか」と尋ねたところ、奥様と面会したときに酷い暴言を言われたそうです。それが原因だろうと話されていました。

奥様の寿命がいつ尽きるかもしれないので私も一緒しますので面会に行かれますか？とお誘いするのですが「うん」とは言われません。「夫婦はもともと他人」とは言いますが、夫婦の関係は難しいものだなと感じました。

認知症で記憶が薄れるのは仕方ないですが性格が変わってしまうのだけは勘弁してほしいものです。

毎月施設に電話を通じて、奥様の様子を聞きながら、ご主人にお伝えしています。

また、ご主人が面会に行く気持ちになることを願って、サポート出来たらと思っています。



パートナーの

活

動

報

告

中国支部 その人らしい最期 Iさんとの2か月

気取らない人間味あふれるお人柄

Iさん(82歳・男性)に初めてお目に掛かったのは2025年4月30日でした。

Iさんは中国支部設立当初事務所のお手伝いをされ、友人でもありりすパートナーのOさんとは中国支部設立当初から20年以上のお付き合いだったと後日お聞きしました。

眼鏡をずらして上目使いに私を見上げた第一印象は小柄な体ですが気取らなくて飄々として誠実さを感じさせられる人間味あふれるお人柄でした。

お話は常に中途半端ではなく納得のいくまで議論をされる性格でした。この性格の一面の頑固さにOさんが1人で困っていた様子で、私に相談をしてきました。これが彼女と2人で、Iさんに寄り添うことになったいきさつです。

後述のこの日は、2025年2月胃癌を発症され医師より余命3か月を宣告された後の何日目かの受診日でした。

緩和ケア病院を紹介いただき申し込みに3人で行きましたが、ご本人は自由を拘束されるのが嫌で入院に応じることはなく、自転車で出かける毎日でした。

徹底した身辺整理と準備

お住まいのマンションは、1階にY内科医院、階上は院長夫人が管理する高齢者用マンションで、管理人(院長夫人)として孤独死をご心配をされていたようでしたので、りすシステム任意後見人受任者としての紹介をさせていただきました。管理人(院長夫人)より「このような機関があるのか」とご安心されました。ある日、Iさんがマンションに友人たちを招き電気製品、家財など「欲しい物があれば持ち帰って欲しい」と言い、管理人(院長夫人)がこの様子を目撃されて驚いたとおっしゃられました。

そしてご自身の衣類は近くの大型スーパーの不用衣類の回収BOXに最低限を残し持ち込み処分をされたとのことでした。

ご自身は日本尊厳死協会会員で、延命は望まないとおっしゃっており、死の前日、もう体力

が無くふらつく身体で、Oさんを伴い葬儀社を訪問して直送、収骨なしとご自身で手続き、支払いも完了され、残った物は全て廃棄するよう指示をされました。

6月17日(火)早朝、Iさんより「いま、吐血、下血した。もう、動けない」と受電、マンションに向かいました。救急車手配は、ご本人の希望でサイレンは鳴らさないことになりました。

尊厳ある最後の時

7時に救急隊員マンションへ到着。ストレッチャーで救急搬送され、意識朦朧で広島記念病院到着、主治医より診察、臨終を告げられ、Oさんと2人で看取ることになりました。

Iさんの最期は、誰にも迷惑をかけず、信念を貫いた人生の締めくくりでした。飾らず、淡々と、それでいて深い愛情を周囲に残して旅立たれたその姿に、心からの敬意と感謝を捧げます。

私たちはこれからもIさんのような方々に寄り添い続けたいと思います。



Iさん亡き後に開かれた談話室風景(9月6日)



パートナーの

活動報告

りすセンター仙台 広報活動奮戦記

地域に根差した新しいスタート

2025年7月に、地域密着型パートナー法人としてスタートしたばかりの『りすセンター仙台』です。本部や北日本支部からの応援依頼がある場合は、利用者のサポートに入りますが、直接担当する利用者がまだまだ少ない状況です。

高齢者等終身サポート事業の助けを必要とする方に、りすシステムの「生前契約」の情報を伝え、つないでいただける組織や団体、企業への広報活動から始めています。とりわけ、仙台市内の中学校区に1つの割合でおかれている53の地域包括支援センター（以降包括と短縮します）へのご挨拶や情報交換に毎日のように出向いています。

りすシステムが、開拓者として、まだ介護保険制度もなく、当然地域包括支援センターも存在しなかった時代から脈々と築き上げてきた『生前契約』のしくみが、今では高齢者等終身サポート事業として、世の中で欠かせない仕組みに育ってきた経緯からお伝えしています。

大学との連携を生かした活動基盤

「りすセンター仙台」を運営する株式会社福祉工房は、地元東北福祉大学の関連企業として、これまでも、福祉サービス第三者評価事業や、フレイル予防を中心とした大学健康増進施設の運営にも関わってきましたので、包括や、介護保険施設、有料老人ホームなどでも良く知られています。高齢者福祉の業界には、大学の卒業生が数多く活躍しており、訪問先でも沢山の卒業生（OB・OG）との出会いがあります。そのような強みを活かしながら、まだまだ残念ながら一部でしか知れていないりすシステムの『生前契約』を、1人でも多く関係機関の皆様にご紹介いただ

るよう頑張っております。

仙台元気塾交流企画へのお誘い

大学の健康増進施設の利用者『仙台元気塾』の塾生を対象にした交流企画をりすシステム利用者の皆様にもご利用いただけるよう、りす倶楽部でご案内しています。りすシステム主催の例会と合わせ、楽しみや交流の機会を増やすことができると願っています。

これまでは3回の仙台元気塾交流企画をご案内させていただきました。これからも、定期的にご案内してまいりますので、ぜひ東北のみならず、全国からご参加をお待ちしております。

2025年の交流企画

- 【第1弾】5月14日
楽天イーグルス観戦！ 4名参加
- 【第2弾】7月9日
染紙作品の世界を楽しもう 1名参加
- 【第3弾】9月23日
「秋の風物詩『芋煮』
&ノルディックウォーキング」
2名参加

ハルテイクウォーキング!

利用者さん2名と
楽しみました

9月23日（火）



九州支部 Kさんの最後の夏

ささやかな90歳の誕生日

猛暑続く今年8月、Kさん（90歳・女性）のプチ誕生会をささやかでしたが、リクエストのケーキでお祝いしました。ロウソクは施設の規則で灯せないので、小さな声で、♪ハッピーバースデー♪を歌いました。

Kさんとの笑顔の思い出

いつも笑顔で迎えて下さったKさん、9月末90歳の生涯を終えました。

ホーム入居のタイミングで、7年前にりすシステムと契約。コロナ禍以前には、新年会や熊本の日本水彩画展ツアーにも参加されました。

コロナ禍と入退院の日々

コロナ禍では、コロナ→インフルエンザ→コロナに感染、入退院が続きました。

コロナのときは面会不可、依頼された物品を持参しても、看護師を介しての引き渡しでした。退院後しばらくは、介護棟（一時介護）と自室を行ったり来たり。常時酸素が必要となり訪問診療を開始しました。



転倒されることが多くなり、通常ナースコールは3か所あるのですが、車椅子移動のため、間に合わないことがありペンダントを加えてもらいました。鼻腔酸素で、耳掛け式のコードがあり、首に巻き付けること多くなりました。

去年10月、自室で転倒され骨折の疑いで救急搬送、入院。急性期を脱し、リハビリ病院へ転院となりました。何度か面会に行きましたが、その都度ご要望がありました。

- ①個室に移りたい
- ②もう少しおいしいものが食べたい
- ③早く退院してホームに戻りたい

身元引受人としては、病院やホームと相談し

ながら一つひとつクリアしました。暮れの12月には退院、一時介護室から自室へ戻ることができました。

介護棟への転居

しかし、年明けには、ホーム側から移り住みの打診があり、三者で話し合いました。

Kさんは熟慮され、りすシステムが手続きや片付け、処分、引越しなどを受託し、5月末には移り住みが完了しました。介護棟では、Kさんの希望で扉は常に全開。スタッフの見守りがあるから安心と。

8月の誕生日の後、毎年依頼されているという国分寺住職の盆参りがあり、介護棟スタッフから連絡があり対応しました。Kさんと国分寺さんに確認し、本部から現金書留郵便でお布施を送金しました。

穏やかな最期と納骨

9月に入ると、訪問診療医師から浮腫^{むくみ}と肺の状況があまりよくないので、酸素と麻薬量を増やしますと連絡がありました。食欲も落ち、点滴を開始。訪問看護対応時に合わせて面会に行きましたが、いつもの笑顔がありませんでした。大好きな和菓子を持参したのですが、1個だけ時間をかけて少しずつ食べてくれました。エアマットに交換した方がよいのではとケアマネに相談。その数日後、安らかに旅立たれました。

10月大分功德院へ、ご夫妻の遺骨とKさんのご実家の過去帳、自室にあった水彩画、額を外したお気に入りの一点、納棺できない愛犬の置物を、功德院でお経をお願いし納骨堂に納めました。福井大海先生を尊敬されていたことを聞いており、7月のご逝去のことはお伝えしませんでした。今頃は、天国でお会いになっているかもしれません。ご冥福をお祈りいたします。





元 捜査官のつぶやき…

孤島の探索

北国の地検に勤務していた冬のことである。その管内には、冬期になると雪に閉ざされて一般の交通が途絶する半島があり、陸の孤島などと呼ばれていた。その半島の先端に近いほうに小さな漁港があって、冬は全国屈指のイカ漁の拠点として活況を呈していた。

あるとき検事正に呼ばれ、この漁港の町に行って内偵するように命ぜられた。検事正の説明によると、豊漁でフトコロのあたたかいヤン衆（出稼ぎの漁船員）を狙って暴力団が3団体もその町に入り込み、賭博や管理売春で荒稼ぎをされていて、くにへ帰れないヤン衆が続出しているが、警察では見て見ぬふりをしており、無法地帯になっているという投書が相次いでいるというので、地検として看過できないということだった。

私は、警察出身の腕っぷしの強い事務官2名を選び、農協の職員がイカの買い付けにきたというふれ込みで現地に潜入することにし、毛糸の帽子にチャンチャンコ、ボロの皮かばんを肩になめにかけて長靴ばきというそれらしいみなりをして、チェーンを巻いた四輪駆動の小型トラックで積雪の海岸線を長駆、現地へ入った。

1日目は、コークハイを飲み過ぎて腰が立たず収穫はゼロであったが、2日目の夜、浜のテント張りの屋台で黒山の人だかりがしているので、分け入って前に出た。それは、射的で、こぶし大の丸っこいサイコロが3つ縦に積み重ねられており、それをコルク銃で撃つと、3個がコロコロと転がってくる。実は、その出た目の合計の偶数奇数で丁半を争うサイコロ賭博で、回転の早さとあいまって、5万、10万の札が乱れ飛ぶのを現認した。

帰庁して詳細を報告し、暴力係のベテランM検事に引き継いだ。M検事は、腕力の強い事務官10名余りを集め、車5台で現地に行き、賭博の現場を急襲して開帳者、胴元ら数名を根こそぎ賭博の現行犯で逮捕した。

あとで聞くと、検事が賭博の現行犯を逮捕した前例はないということで、指揮した検事正も大物だったが、私もM検事も無鉄砲なはなしであった。

(りすシステム監事 清水勇男)

元検事・公証人・弁護士。東京地検特捜部の時代、ロッキード事件の捜査・公判に関与し、現在団体役員など。

お知らせ

りす倶楽部が あ・た・ら・し・く なります♪

▶ 2026年1月から りす倶楽部は隔月発行の合体情報誌に進化します



合体情報誌
りす倶楽部



1. 情報量 UP ↗
2. 情報 早く
3. インターネット配信で エコ

▶ 詳細は来月号で

● 談話室 イベントのご案内 ●

◎参加費は無料です。定員数がありますので、ご予約ください
◎定員になり次第、締め切りさせていただきます

談話室 / イベントのお問い合わせ
お申込み先はこちら



0120-889-443

お待ちしております♪

北海道支部	
11月6日(木)	11時～15時
12月6日(土)	忘年会(詳細は20ページに)
会場: 北海道支部事務所	
東日本支部	
11月15日(土)	13時～15時
11月28日(金)	13時～15時
12月15日(月)	13時～15時
定員: 10名 会場: 北の丸ガラスゲート	
中部日本支部	
11月10日(月)	13時～15時
12月16日(火)	忘年会(詳細は20ページに)
会場: 中部日本支部事務所	
中国支部	
11月1日(土)	12時30分～14時30分
12月6日(土)	12時30分～14時30分
会場: 参加申し込みの方にお知らせします	
西日本支部	
11月21日(金)	13時～15時
12月23日(火)	13時～15時
定員: 5名 会場: 西日本支部事務所	
大分支部	
11月30日(日)	宇佐神宮ツアー(詳細は右)
12月25日(木)	13時～15時
定員: 5名 会場: 大分支部事務所	
九州支部	
11月29日(土)	13時～15時
11月30日(日)	宇佐神宮ツアー(詳細は右)
12月29日(月)	13時～15時
定員: 3名 会場: 九州支部事務所	

北日本支部	
11月30日(日)	11時～15時
12月18日(木)	忘年会(詳細は20ページに)
会場: 北日本支部事務所	
東東京ランチ	
東東京ランチの談話室は当面の間お休みです	
西東京ランチ	
11月21日(金)	13時～15時
12月21日(日)	13時～15時
定員: 5名 会場: 西東京ランチ	
横浜事務所	
11月10日(月)	13時～15時
11月22日(土)	13時～15時
12月8日(月)	13時～15時
12月24日(水)	13時～15時
定員: 6名 会場: 横浜事務所	

九州支部	大分支部
宇佐神宮御鎮座 1300年参拝ツアー	
▶ 神仏習合の原点ともいえる宇佐神宮の地において、神職と僧侶が共に練り歩き、上宮にて世界平安を祈る特別大法要が執り行われます	
▶ ぜひこの機会にご参加ください	
日 時: 11月30日(日)	
集 合:	
▶ 九州支部: 9時00分 JR博多駅(解散16時30分)	
※ JR博多-宇佐駅 料金個人負担	
※ JR宇佐駅よりジャンボタクシー利用	
▶ 大分支部: 10時00分 JR大分駅(解散16時00分)	
※ JR大分駅よりジャンボタクシー利用	
参加費: 3000円(昼食代含む)	
締 切: 11月10日(月)	
定 員: 大分(18名) 九州(4名)	
※ 宇佐神宮にて功德院東京ツアーと合流します	
※ 定員になり次第締め切ります	
お申込みお問合せ先:	
▶ 九州支部: 092-738-2718	
▶ 大分支部: 097-538-6263	



りすシステムはプライバシーマークを
2025年4月2日に取得しています



「個人情報を適切に管理していると評価された事業者」が使用できるマーク、それがプライバシーマークです。プライバシーマークは、個人情報の取扱いを適切に行い、法令以上にしっかりと対応していることを表しています。

ね。 (芳賀みゆき)
朝晩めっきり冷え込むようになりました。インフルエンザが例年よりはやく流行しているそうです。皆さまもどうぞ温かくしてお過ごしください。

日(東本優子)
日が短くなると物悲しくなりますね。そんな秋の日に届いた絵葉書。まるっこい特徴のある文字に、懐かしさがこみ上げました。元気で気ままな旅を楽しむ便りに、心を温めてもらいました。

編集後記
秋を感じるまでもなく冬の気配。気温差に体もびっくりですが、秋の味覚を味わって季節を楽しみたいです

お知らせ

お部屋に小さなツリーを飾ってみませんか？



木の実やリボンを使って
あなただけのオリジナルツリーを手づくりします。
手先を動かしながら、季節の雰囲気を楽しみましょう

初めての方
大歓迎

12月4日

「手づくりで楽しむ クリスマスのミニツリーづくり」

日時：12月4日(木) 14時～16時

会場：りすシステム本部会議室

参加費：2,500円(税込み)

定員：15名(定員になり次第締め切ります)

締切：11月27日(木)までにお申し込み下さい

持ち物：持ち帰り用袋(完成品を持ち帰れます)

※汚れが気になる方はエプロンをお持ちください
お申し込みの方に詳細をお送りします

お申し込みは **りすシステム** 0120-889-443



完成後は、お茶とスイーツを楽しみながら、
みなさんとの交流の時間をご用意しています。
ぜひお気軽にご参加ください。



忘年会のご案内

◎定員になり次第、締め切りさせていただきます

お申し込みは **りすシステム** 0120-889-443

北海道支部

忘年会 12月6日(土) 12時～14時

会費 未定

定員 15名 ▶締め切りは11月28日(金)

会場 未定

※お問い合わせの方へ詳細をお知らせします

中部日本支部

プチ忘年会 杉山代表とランチを楽しみましょう

12月16日(火) 12時～14時

会費 3,000円

定員 7名 ▶締め切りは12月10日(水)

会場 魚がし料理 嘉鮮(かせん)

JR名古屋駅高島屋12階

北日本支部

忘年会 12月18日(木) 12時～14時

会費 未定

定員 15名 ▶締め切りは12月10日(水)

会場 未定

※お問い合わせの方へ詳細をお知らせします



NPO りすシステム
0120-889-443

りすセンター・新木場
0120-373-959